

平成 22 年 6 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19720199

研究課題名（和文） ロシア史における保養地事業と市民的ナショナリズム

研究課題名（英文） Health resorts and the civic nationalism in Russian history

研究代表者

池田 嘉郎（IKEDA YOSHIRO）

新潟国際情報大学・情報文化学部・講師

研究者番号：80449420

研究成果の概要（和文）：近代ロシア帝国における政治秩序を把握するための、あらたな視角を得た。それは「専制の風土論」（geopolitical culture of the autocracy）と呼びうる。それが意味するものは、専制権力、領内の自然、臣民の身体の一部性を実現しようとするイデオロギーである。第一次世界大戦期のロシア帝国において、このイデオロギーが追求される過程を、アーカイヴ史料に基づいて明らかにした。さらに、このイデオロギーが、総力戦という状況を媒介として、専制権力からボリシェヴィキ政権へと継承されるという展望をも示した。

研究成果の概要（英文）：From this research we found a new perspective for understanding the political order of the modern Russian empire. That is “the geopolitical culture of the autocracy”. It means an ideology to promote the union of the autocratic power, the nature of the territory, and the body of the subjects. Using the archive materials the research made clear the process of realization of this ideology in the Russian empire during the First World War. Then, the results of the research indicate that this ideology was inherited from the autocratic regime to the Bolsheviks under the condition of the total war.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	420,000	2,820,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：西洋史、ロシア史、ナショナリズム、景観、身体、ソ連、第一次世界大戦、ロシア

1. 研究開始当初の背景

ソ連崩壊後の研究動向においては、ロシア帝国に暮らす個々の民族のナショナリズムのみに焦点があたり、ロシア帝国全体の政治的一体性については軽視される状況があった。

他方、市民的ナショナリズムという概念を用いて、ロシア帝国の一体性を重視する研究も現れたが、そこでは欧米諸国とロシアとの共通点のみが強調され、ロシアにおけるナショナリズムの独自性を明らかにする試みはきわめて不十分であった。

2. 研究の目的

ロシア帝国の政治的一体性を把握するための新たな視角を獲得することが、研究の第一の目的であった。この目的のために、市民的ナショナリズムという枠組を援用したが、欧米諸国の展開を単純に当てはめるのではなく、具体的な実証の過程で、ロシアにおけるナショナリズムの独自性を明らかにしていくことが、第二の目的であった。

3. 研究の方法

第一次世界大戦期にロシア帝国において保養地事業が振興されたことに着目し、「景観」と「身体」の二点を切り口として、ロシア帝国におけるナショナリズムの実態を解明することを目指した。

さらに、研究の過程で、ナショナリズム研究のためには当該地域の権力の編成原理を解明することが不可欠であるとの認識を得た。そこから「権力と景観」「権力と都市」というあらたな問題設定を追加することとなった。

4. 研究成果

ロシア帝国末期の政治空間の一体性を把握するための、あらたな視角を得た。それは「専制の風土論」と呼びうるものである (geopolitical culture of the autocracy)。それが意味するものは、専制権力、領内の自然、臣民の身体の一貫性を実現しようとするイデオロギーである。このイデオロギーを実現するための政治的実践が、第一次世界大戦期のロシア帝国において明確なかたちをとりつつあったことが、アーカイヴ史料の分析を通じて明らかとなった。

さらに、このような実践は、総力戦という状況を媒介として、専制権力からボリシェヴィキ政権へと継承されることとなったのである。

以上のような認識が得られたことで、帝政

末期からソ連期にかけてのロシア政治史を、単純に欧米諸国と同様の市民的ネイション・ビルディングの過程として捉えるのではなく、専制権力に起源をもつロシア独自の過程として捉えることが可能となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①池田嘉郎「社会主義の都市アイデア」、吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市 1 アイデア』、2010年5月、査読無、209 - 232 頁

②池田嘉郎「ユーラシアの地政学としてのソヴィエト建築学——モスクワ、ノヴゴロド、北京」、『地域研究』10 卷 2 号、2010 年 3 月、査読有、90 - 108 頁

③池田嘉郎「専制、総力戦と保養地事業——衛生・後送部門最高指揮官オリデンプルグスキー」、『ロシア史研究』84 号、2009 年 5 月、査読有、47 - 63 頁

④池田嘉郎「スターリンのモスクワ改造」、『年報都市史研究』16 号、2009 年 2 月、査読有、36 - 51 頁

⑤池田嘉郎「第一次大戦期ロシア帝国の保養地事業とナショナリズム」、『19 世紀学研究』1 号、2008 年 3 月、査読有、122 - 140 頁

[学会発表] (計 4 件)

①池田嘉郎「都市と対峙するボリシェヴィキ政権：公営事業、「寄生分子」と内務人民委員部、1921 - 28」、ロシア史研究会大会 (法政大学)、2009 年 10 月 11 日

②池田嘉郎「専制、総力戦と保養地事業——衛生・後送部門最高指揮官オリデンプルグスキー」、ロシア史研究会大会 (名古屋学院大学)、2008 年 10 月 12 日

③Ёсиро Икэда. Труд как способ создания «советских граждан»: Производственная пропаганда, 1920-21 гг., 国際学術会議「ロシアにおける 1917 年と内戦」(ロシア連邦サラトフ市)、2008 年 8 月 29 日

④池田嘉郎「現代都市類型から見た 20 世紀モスクワ」、都市史研究会シンポジウム（東京大学）、2007 年 11 月 11 日

〔図書〕（計 1 件）

池田嘉郎『革命ロシアの共和国とネーション』、山川出版社、2007 年、285 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 嘉郎 (IKEDA YOSHIRO)

新潟国際情報大学・情報文化学部・講師

研究者番号：80449420

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし